

A P 1 主体的・対話的に学習に取り組む態度を身に付ける。

●前期の取組

- I 授業では、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を展開する。
- II 他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫する。
- III 授業形態や活動内容、評価方法等を工夫して授業改善を進め、改善点を明確にした学習指導案を公開授業で提示し、それに関する研究協議を実施する。



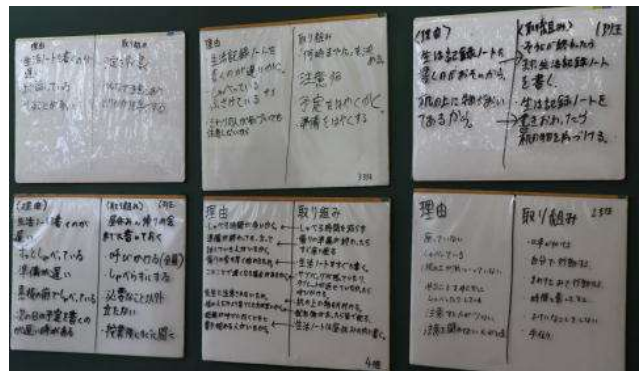
【保健体育科】グループでの情報交換



【理科】課題解決に向けた話し合い



【学級活動】各グループで課題設定



【学級活動】まなボードを活用した意見集約

●生徒意識調査結果（前期）

	意識調査項目（目標値）	前期達成度
1	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。(80%)	88.6%
2	話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。(85%)	82.5%
3	学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。(75%)	79.4%

●成果と課題

- 目標1については、全校達成度が88.6%と目標値を大きく上回った。これは、各教科の授業において、生徒自ら課題を設定し、その解決に向けて自分で考え取り組む活動を継続的に行った成果であると考えられる。
- 目標2については、目標値を下回った。また、目標3については、全校達成度は目標値を上回ったが、学年別評価では下回った学年もあった。自分の考えもち、伝え合っているものの、周りの意見を聞き、自分の考えを見直す機会が不十分であったと考えられる。そこで、2学期の取組として、話し合い活動後や授業の終末に自分の考えを振り返るための時間を確実に設定し、ワークシート等に記入させることで、自分の考えを深めたり変容を自覚したりするための場を設けていきたい。

AP2 生徒の自己有用感を高める。

●前期の取組

1 挨拶と温かい言葉が行き交う学校を目指す取組について

・挨拶運動とさわやか運動

毎月7日、17日、27日に風紀委員が、登校時に生徒玄関や各教室の前で、挨拶運動を行った。給食時の放送を活用し、風紀委員長が挨拶運動の様子を伝えたり、よりよい挨拶になるように全校生徒に呼びかけたりした。徐々に自分から挨拶をする生徒が増え、学年関係なく挨拶を交わす姿が見られた。

また、小中高連携の一環として、6月に「さわやか運動」を行った。今年度は、コロナ禍以前と同様に、十二町小学校出身の生徒が十二町小学校に出向いて、3日間挨拶を交わした。

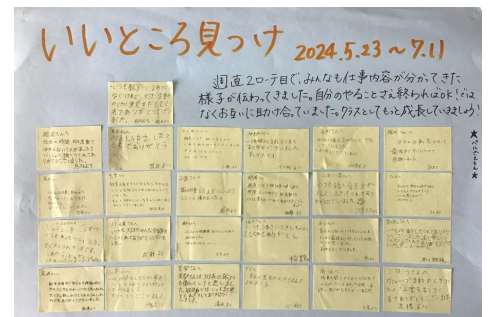


【十二町小学校でのさわやか運動】

2 生徒一人一人のよい点や可能性を教師が積極的に認めるとともに、生徒同士が認め合う場を計画的に設定する取組について

・生徒一人一人のよいところを生徒同士で伝え合う掲示

2年生では、当番活動や係活動を生活班単位で行う週直制度を導入している。6週間で1サイクルとなるが、最終週の6週目に班員のよかったところを「いいところ見つけ」として生徒が付箋に書いて掲示するとともに、担任が取組の様子をコメントしてフィードバックすることで、生徒の自己有用感を高められるようにした。



【「いいところ見つけ」の掲示】

3 学校生活をよりよくするために互いの意見のよさを生かして解決方法を合意形成したり、努力すべきことを一人一人が意思決定したりできるような言語活動の充実した学級活動を行う取組

・学年や学級主体で行うレクリエーションの企画と運営

各学年で、生徒が学年や学級のレクリエーションを企画する学級会を行った。1年生では、学級の絆を深めるためレクリエーションを行う目的や、そこで大切にしたいことを議題として話し合いをした。生徒同士が、ダイヤモンドランキングを使い、合意形成のチェックリストを参考にして、積極的に本音で話し合う生徒の姿が見られた。



【1年生での学級会の様子】

●生徒意識調査結果（前期）

意識調査項目（目標値）		前期達成度
1	自分にはよいところがあると思う。(85%)	84.8%
2	先生はあなたのよいところを認めてくれている。(85%)	87.0%
3	人が困っているときは、進んで助けている。(90%)	90.8%
4	自分からさわやかな挨拶をすることができている。	86.3%

●成果と課題

- ・生徒意識調査では、「先生はあなたのよいところを認めてくれている。」と「人が困っているときは、進んで助けている。」の2項目については目標値を上回った。しかし、「自分にはよいところがあると思う。」については目標値をわずかに下回った。掲示物等を通して、生徒のよいところを認める取組を他学年にも広げたり、掲示物だけでなく教師がよいところを認める声かけを積極的に行ったりすることで、生徒の自己肯定感や自己有用感を更に高めていきたい。
- ・「お子さんは、自分からさわやかな挨拶をしていますか。」という保護者への調査では、生徒の回答より20ポイント低い結果となった。学校内だけでなく、家族や地域の方にも自分からさわやかな挨拶ができるよう、働きかけたい。
- ・生徒が企画・運営する活動を積極的に取り入れているので、主体的に行動する生徒が増えてきている。学級会の進行だけでなく、運営面でも多くの生徒が主体的に取り組めるよう、今後も働きかけていきたい。